



GERMAN
TUNER
REPORT

Lorinser

Sportservice Lorinser GmbH
Alte Bundesstr. 45
D-71332 Waiblingen
www.sportservice.lorinser.com
+49 (0) 7151 136 2410



老舗メルセデスチューナーの 新たなる挑戦

長きに渡って個性的なチューンドメルセデスを世に放ってきたロリンザー
彼らの最新作であるEクラスはそれまでとは違ったアプローチが試みられていた
ドイツ・ヴァイブリンゲンに赴き、今とこれからのスタンスを取材。
新作GLSとともにロリンザーの進む道を紐解いてみた

PHOTO & REPORT ● Katsuke KUMASAKI (af imp.)
SPECIAL THANKS ● MRQ, Händels GmbH

「ワイルド」の風を
大層と叫ぶ。この
「ワイルド」の
生きた車。この
川に流れていく。生
きた車。この
サービスが、この
ことだ。





Lorinser GLS 350d 4MATIC

フルサイズの堂々たる体軀を
エレガントスポーツに仕立てる

SPEC
 Front bumper w/ 1st stainless grill
 Rear bumper
 Front fender set
 Tailgate (be) arch set
 Exhaust
 Sport exhaust with double tail pipe
 Lorinser Diesel module
 500ps/700Nm
 Wheel
 RS9 11x21
 RS9 11x22
 Exhaust
 1st side set / 2nd side / 3rd side door sill



↑ W222用グリルの移植で、顔だけ見ればSクラスに見える。ボンネットが延長され、押し出しは強まっているが、クラシカルなルーパーなので、エレガントさを感じさせる。



↑ ビラーまで延長されたルーファスゲイラーと大ぶりなバンパーで構成されるリア。ビルトインタイプのエキゾーストもロリンザーらしいディテール



↑ パフォーマンスECUにより300ps/700Nmに引き上げられた350d。応答性トルクで2トンを遙かに越える団体を突きと送らせる。ロードアシストはブルーのイルミネ付き。フロアマットとともにオーナーを迎えてくれる



↑ 本誌は新作のRS10は鍛造の23インチ。ロリンザー55系5スプークの鉄製で、ヒマラヤグレーポリッシュというバイカラー仕立てが美しい。左はRS9の22インチを覆く

Sクラスフェイスを纏う SUVのフラッグシップ

メルセデスEクラスキーの頂点に君臨するのは、やはりSクラスである。その一方で、このところ矢継ぎ早にラインアップを拡充したSUVシリーズでは、頂点はもちろんこのGLS。ネーミングの統一によってその名はGLからGLSへと変更されたが、その堂々たる体軀は健在。SUVにおけるSクラス、あらゆる条件を兼ね備えるメルセデスのもうひとつの旗艦。

そんなGLSを素材にロリンザーが与えたのは、なんとSクラス用の純正フロントグリルだ。W222型Sクラスのグリルは、細身のルーパーが走るクラシカルなもの。GLSの純正グリルよりも大きく、設置もSクラスより角度を起こしてあるため、そのインパクトは絶大だ。エレガントかつ迫力のあるフェイスは、SUVのSクラスに相応しい。

そんなフロントグリルにあわせて、フロントバンパーは左右に巨大な開口部が備わり、ワイド感を強調。ボトムラインはインテークに合わせてロールアップしており、スポーティさをプラスしている。

そしてリアもまた個性的だ。ルーファからDピラーまで覆う大型のリアスポイラーと、菱形のビルトインマフラーを備えたバンパーという構成。AMGモデルとは違ったアプローチのデザインが与えられたGLS。ロリンザーらしいアイデアが活きた個性的なスタイリングは、SUVにおいてもどこかエレガントであり、力強さと美しさを併せもっている。

Lorinser



SPEC
Aerodynamics
 Front lip carbon
 Rear bumper add-on part carbon
 Side skirt
 Rear wing carbon
 Side mirror trim
Exhaust
 Sport exhaust with double tail pipe
Performance
 Lorinser Performance Upgrade E43
 443ps/620Nm
 Wheel
 RS11 21x23
 Mirror
 Pedal set / Floor mat / Illuminated door sills

Lorinser E43



ードアシルはGLS規格にブルーのイルルで Lorinserの文字が浮かび上がる。↑控えめなサイズのテールエンド。天面にはもちろんプランフロコが彫刻されている



↑ダイナミックな造形となった新作ホイールRS11。ロリンサー伝統の6スポークの鍛造系と見ることもできる。20インチ及び21インチをラインアップ。標準車は21インチを装備



1.ホイールベースの半分より後半にかけて方ナード状のスカートが覆われる。サイドカーレルとの相性もよい。2.3ピース式のフロントリップもカーボン製。シンプルな造形でジュエトルなスタイルを演出す。3.純正バンパーにアドオンするカタチのリアディフューザー。4.本出しマフラーが顔を覗かせる。4.小振りなトランクスポイラーは美しい曲線を描き、エレガントなイメージを生む



もちろんキャラクターの強さを望む声もあるというから、ロリンサーらしいデザインが施されたバージョン2の発表にも期待したいところだ。

大幅に進化した新型Eクラスは、自動運転に向けて多くの安全機能が追加されている。ロリンサーはメルセデスチューナーであるからこそ、純正と同等の安全性能を確保した上で、走行性能を引き上げる必要がある。公認チューナーとして、メルセデスよりも安全性でメルセデスよりも劣ってはいけないという不文律を自らに課している。

だからこそその選択だったのだろう。バンパーレールに3個ものセンサーが備わる新型Eクラスでは、ロリンサーが得意としてきたフルバンパーによる激着なエアロロスタイリングではなく、小さなリップが与えられた。

AMGスタイリングパッケージに対応するポトムラインパーツにはカーボンがあしらわれているが、カナードやディフューザーの造形自体は控えめ。ここ数年ロリンサーが発表してきた強い個性を放つデザインとは一線を画した、アダルトなスポーツテイストを表現してみせた。

やもすれば、従来のロリンサーファンからすると物足りなさを感じるかもしれない。しかし普段使いのビジネスサルーンの要素が強いEクラスの立ち位置からすると、こんなアプローチはむしろ歓迎すべきであろう。声高にチューニングを謳うのではなく、オナーの、ロリンサーを所有しているという満足度に訴えかけるパーソナルな指向性というわけ。

カーボンによるディテールアップで大人のスポーツスタイルを表現



Lorinser

総本山の城下町を拠点に
伝統を連綿と受け継いでいく



↑ロリンサークラシックと称してオールドタイマーやヤングタイマーのレストアを手掛ける。軽度のいいタテ日ベンツを始め、名車がズラリ



↑スポーツサービス・ロリンサーは巨大な社庫の一角に、新車への換装はもちろん中古車ベースでの製作やコンプリートカーも販売している



↑圧倒的な大きさのショールームを誇るメルセデスディーラー、オートハウス・ロリンサー。敷地はさらに広大で、その規模に圧倒される



↑13代目の社長であるマルクス・ロリンサー氏。2006年より代表の座につき、ブランドを導いている。巨大メルセデスディーラーの長でもある



↑エクスポーターマネージャーのハチコイテイス氏。マルクス社長の片腕として長年に渡って世界のロリンサーディーラーとコンタクトしている



↑テクニカルマネージャーであるミヒャエル・ペルトンツ氏。ロリンサーが生み出すチューニングモデルはすべて彼の手によるものとなる

GERMAN
TUNER
REPORT
Lorinser

メルセデス・ベンツの総本山であるシュトゥットガルトからクルマで約15分、ヴァイプリングゲンという街にロリンサーは屋を構えている。さらに東に進めば、内燃機関と自動車開発の父であるゴットフリート・W・ダイムラーの生地、シヨルンドルフがあり、さらに彼がマイバツハとともに世界初の軽量高速車用エンジンを組み上げたカンシュタットとも近い。まさにメルセデスの城下町ともいえる土地に、ロリンサーは存在する。

その広大な敷地には、隣から隣までメルセデスの新車や中古車、商用車までがずらりと並んでいる。そう、我々が目にするロリンサーの母体はご存じの通り巨大なメルセデスディーラー、オートハウス・ロリンサーであり、「スポーツサービス・ロリンサー」はチューニングを受け持つ別会社という立ち位置だ。メルセデスとの関係性は地理的なものだけではない。歴史を溯れば1930年にアーヴィン・ロリンサー氏が整備工場を設立したときからメルセデスとロリンサーの関係は始まっており、3代目となる現社長マルクス氏に至るまで、長きに渡って良好なパートナーシップを築いている。近年人気の高まっているクラシックメルセデスにも力を入れ始めているようで、本社の地階にはヤングタイマーやオールドタイマーのメルセデスが美しくレストアされて並んでいた。現代のメルセデスとは違った魅力をもつモデルは、ロリンサーの長い歴史を象徴するかのようだ。新たなプロジェクトもすでに始動しているという。伝統あるメルセデスチューナーという称号に甘んじることなく独自の道を歩み続けるロリンサー。次回作も楽しみだ。

メルセデス・ベンツと共に
歩んできた80余年の歴史